

GINGA REPORT 401

No. 104
2024.1

そらんぼ四日市 検索

発行日：令和6年1月1日
編集&発行：四日市市立博物館・プラネタリウム
電話：059-355-2700

1月の星空

星図：ステラナビゲータ11/(株)アストロアーツ

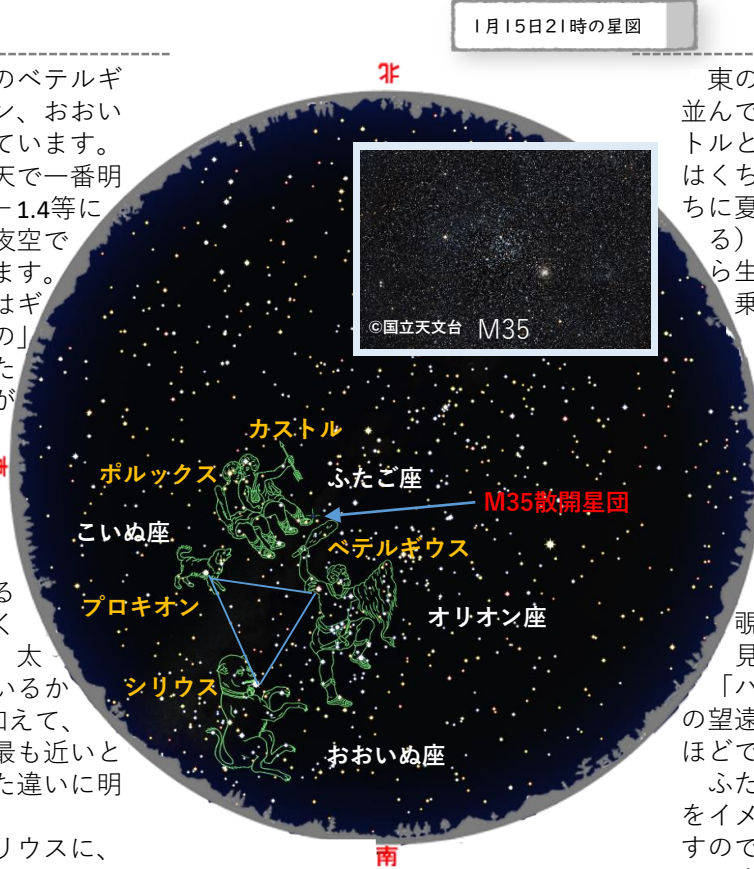
全天一の輝星

冬の大きな三角はオリオン座のベテルギウス、こいぬ座のプロキオン、おおいぬ座のシリウスで構成されています。

このうち、シリウスは全天で一番明るい恒星で、その明るさは-1.4等にも達し、一等星の多い冬の夜空で一際目を引き、目立っています。その明るさから、シリウスはギリシャ語で「焼き焦がすもの」という意味があります。また中国では天狼星といい、狼が獲物を追う気迫がこの星の輝きに似ていることから、**天**そう呼ばれるようになったのではないかとされています。

シリウスがキラキラと明るく輝いて見えるのは、大きくエネルギーの高い星であり、太陽の26倍の明るさで輝いているから...だけではありません。加えて、日本から見える恒星の中で最も近いところで輝いているため、けた違いに明るく見えるのです。

寒空の下で猛烈に輝くシリウスに、目を奪われてみませんか。



1月15日21時の星図

M35散開星団

東の空の高いところで、二つの星が並んで輝いています。ふたご座のカストルとポルックスです。双子の兄弟は、はくちょうに変身した大神ゼウス（のちに夏の星座であるはくちょう座となる）と王妃レダとの間にできた卵から生まれました。二人はアルゴ船に乗り込んで、コルクスへ金毛の牡羊の皮を奪い返しに行き、活躍したと言われています。

兄、カストルの足下にはM35という散開星団があります。散開星団とは、銀河内で、数十から数百の星が比較的ゆるく集合した星団です。カストルの足環に例えられることもある美しい星団で、M35を天体望遠鏡で覗くと、100個くらいの星が見え、見ごたえがあります。明るい星が「ハ」の字に並んでいる様子は小型の望遠鏡でも十分に見ることができるほどです。

ふたご座の頭から足先まで、全体像をイメージするヒントにもなる天体ですので、一度は望遠鏡で見てみたいものですね。

ガリレオ教室

今年注目の天文現象

2024年は彗星の接近や土星食など、望遠鏡での観測におすすめの天文現象がたくさんあります。今年注目の天文現象を、天文ボランティアと一緒に学んでいきましょう。

日時：1月14日（日）

① 11：00～11：20

② 14：00～14：20

場所：5階 コズミックラウンジ

料金：無料



クリスマスCDコンサートご報告



当日は来館された皆さんとクラシック音楽を聴きながら星空を眺めたり、クリスマスソングで手遊びをしたりと、とても楽しい時間を過ごすことができました。2024年も星や宇宙を通して、わくわくできるようなイベントをお届けいたします。



博物館主催 スターウォッチング 中止

1月27日（土）18：00～19：30のきらら号スターウォッチングは市民公園の工事のため中止といたします。大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、今後のきらら号スターウォッチングについては、当館ホームページ及びFacebookで発信します。



編集後記

お正月に餅を食べるのは平安時代に宮中で長寿を祈願して行われた歯固めの儀に由来していると言われています。

実は星にも一目見ると寿命が延びると言われている縁起の良い星、カノープスがあります。中国では南極老人星と呼ばれており、2月頃にかけて条件が良ければ見つけることができます。見つけづらい星ですが、長寿を目指し、探してみたいところです。

1月の月

4日  下弦

11日  新月

18日  上弦

26日  満月